

生活

当今的第三代和第四代

さんせいよんせい いま
三世四世の今

今年 3 月, 世界棒球精英赛 WBC (World Baseball Classic) 在电视和报纸上引起了不小的轰动。即使您平时不看棒球比赛, 也会对 WBC 中国球队产生一些兴趣吧。然而, 大家也许不知道, 中国球队的队员真砂选手是一名遗华孤儿的第三代。多家报刊介绍说“前福冈软银鹰队球员真砂被选定代表中国参赛”, 但只写“他的父母来自中国”。仅从媒体报道上我们还看不出真砂选手对他的遗孤祖父有多少了解。看了其它采访报道, 也没找到任何关于他的根以及他与中国相关的内容。那么今天生活在日本的第三代和第四代是如何看待他们自己的根的呢?

去年 (2022 年) 9 月 24 日, 《每日新闻》早报报道了一项针对遗华日本人第三代的问卷调查结果。调查对象仅为第三代, 并且有 100 多人接受了调查。媒体如此把遗华日本人第三代的问题作为重大新闻报道出来还是第一次的。据悉调查表是由第一代和第二代转交过去的, 而且主要交给了原本与支援团体和日语学习班有联系的家庭。由此推测没有参与支援团体的遗华日本人家庭第三代就没有拿到这份调查表。据说还有一些第一代和第二代因对此调查抱有抵触情绪, 没有把调查表交给第三代。报道中虽然没有提此项调查的回复率, 但我们应该注意到, 这个调查结果反映的是 114 名 (十几岁至五十几岁) “刚好拿到调查表回答” 的第三代人的心声。

以下是一些调查结果。首先, 超过一半的受访者有过不敢说出或不愿意让人知道自己的根是在中国的经历。其理由就是“觉得解释起来很麻烦”, “怕被人欺辱”。近 40%

ことし 3 月、テレビや新聞を大いににぎわせた野球の世界一決定戦 WBC (World Baseball Classic)。普段は野球を見ない人も、WBC 中国チームには少し関



心を持たれたのではないのでしょうか。ただ、中国チームの真砂選手が中国残留孤児の三世だということには知らない人が多いかもしれません。多くの新聞記事で「元福岡ソフトバンクホークスの真砂選手が中国代表に選ばれた」と紹介され、「両親が中国出身」としか書かれていませんでした。真砂選手が、残留孤児である自身の祖父のことをどのくらい知っていたかは、記事からはわかりません。その他のインタビュー記事を読んでも、自身のルーツと中国との関係について触れたものは見つけれませんでした。今日本に暮らしている三世四世は、どのように自身のルーツを捉えているのでしょうか。

昨年 (2022 年) 9 月 24 日毎日新聞の朝刊に、中国残留邦人の三世を対象にしたアンケート調査の結果が報じられました。三世のみを対象に 100 名を超すアンケート調査を実施しています。このように残留邦人三世が大きく取り上げられたのは初めてのことです。調査票は一世二世を通じて手渡されたことですが、元々支援団体や日本語教室等とながっている世帯が中心であり、支援団体と関わっていない世帯の三世の手には、調査票は渡っていないとされます。一世二世の中には、この調査に抵抗を感じて三世に手渡さなかった人もいたそうです。アンケートの回収率は書いてありませんでしたが、その調査結果は“たまたま回答することができた”三世 114 名

の受访者回答说,“由于周围人的不理解,感觉活得很苦闷”。在自由陈述栏里有些受访者还写道:“不管我来自哪里,都希望大家把我视为独立的个体淡然看待就是了。”也“希望人们能够了解一下遗华日本人的历史。”

然而,当被问及“你是否听过第一代讲述从战后到返回日本期间的经历”时,超过 40%的受访者回答“没有”,而被问及“是否应该把遗华日本人的经历传述给后代”时,接近一半的受访者回答“有必要”。只有 10%的受访者回答“没有必要”。从中我们不难看出第三代人对历史的传承以及对他们自己的根有着极为复杂的心里。

在本刊第 82 期介绍的 Y 先生,就是遗华日本人第三代。他成为一名战后世代的讲述人,传述遗华日本人等的体



验和苦难经历。他在前面提到的新闻记事的续篇中接受了采访。Y 先生说,直到上高中才知道他的祖母是遗华日本妇女。小时候总是对中国和中文抱有一种抵触情绪,上了大学以后,对中国的抵触情绪才逐渐减弱,进而变得想弄清自己的根在哪里,“我是谁”,就开始向祖母询问。后来去中国留学,就业后工作了一段时间,便萌生了研究遗华日本人及其后代的念头,于是进了大学院继续攻读研究生课程。然后因为应聘战后世代讲述人这一机缘,就开始对祖母进行了多次采访,采访时一边忍受着心中不可言状的痛苦,一边聆听祖母一点一点地叙说。现在他作为一名讲述人,传述着他祖母的人生经历。

像他这样敢于面对自己的根,不仅传述自己祖母的人生经历,还打算今后就二代三

(10~50 代)の声だということを意識する必要がありす。

アンケートの結果をいくつか紹介しす。まず「自身のルーツについて話せなかつたり隠したりした経験がある」人が半数以上。その理由として「説明が面倒だと思つた」「いじめられると思つた」が挙げられています。そして 4 割近くの人が「周囲の無理解などで生きづらさを感じた」と答えていて、自由記述には「ルーツに関係なく、自分という人間をフラットに理解してほしい」「残留邦人の歴史を知つてほしい」という声もありました。

ただ、「一世に戦後から帰国するまでの話を聞いたことはあるか」という問いに、「ない」と答えた人が 4 割超あり、一方で「残留邦人の体験を後世に残すべきか」という問いには、ほぼ半数が「必要」と答えています。「必要ない」と答えた人は 1 割でした。ここからは、歴史の継承や自身のルーツについての、三世の複雑な思いが感じ取れます。

本誌第 82 号で紹介した「中国残留邦人等の体験と労苦を伝える戦後世代の語り部」となった残留邦人三世の Y さんは、先ほどの新聞記事の続編の中で取材に応じています。Y さん自身は高校生になって初めて祖母が残留婦人であったことを知つたと言います。小さい頃は中国や中国語について否定的な感情をもっていました。が、大学進学後によろやく中国への抵抗感が薄れたそうです。そして「自分は何者なのか」とルーツを知りたくなつて祖母に話を聞いたと言います。その後は中国留学も経験し、一旦就職したのち、残留邦人とその子孫について研究したいという思いから大学院に進みました。そして、戦後世代の語り部事業に応募したことをきっかけに、祖母に何度もインタビューをして、吐きそうになるほどの苦しい気持ちを味わいながら少しずつ話を聞き取りました。今は語り部として祖母の人生について語つていま

代的生活足迹继续讲述下去,这样的第三代实在是为数不多。此外,估计还有不少第三代即使心里很纠结,但因生活所迫,也没有地方发泄、没有机会倾诉。还有在日本出生长大的后代们,也许根本感觉不到这种纠结。不过我想这一代人一定会遇到过与(曾)祖父母、父母沟通的困难,他们之所以有这种烦恼不能说与语言和文化问题无关。”亲爱的读者们,在您的家庭中情况又是怎样的呢?作为第一代或第二代,您是否有机会与第三代或第四代的子女、孙子或曾孙谈论“根”这个问题呢?

从上述问卷调查结果得知,超过一半的第三代受访者隐瞒过自己的来源之根。这说明是日本社会迫使他们有了这种经历。可以说日本社会不仅在中国归国者的问题上,在接受其他少数弱势群体并与之共同相处共同生活方面都还很成熟。由此看来,现在



距彼此认同共同生活,似乎还有很长的一段路要走。写本篇开头那条新闻的记者后来回顾道“我

完全没有想象到他们会在面对自己的根上一直承受着如此巨大的痛苦”。即使那些看似完全作为日本人无忧无虑生活着的子孙们,在他们的内心深处也可能隐藏着这种困惑和烦恼。我希望大家能把这一点记在心里。要想发挥想象力首先必须做到了解实际情况。此时此刻我更加强烈地感到,我们这些了解中国归国者历史的人有责任将其传述下去。

す。

彼のように、自身のルーツと向き合い、祖母の人生だけでなく、二世三世についてもこれから語っていきたいと話す三世は少数派です。たとえば葛藤を抱えていても、それを吐き出せる場も機会もないまま、日々の生活に追われている三世は少なくないのではないのでしょうか。また、葛藤を意識することもないまま、日本生まれ日本育ちとして暮らしている人もいるでしょう。ただ、(曾)祖父母や両親との意思疎通等に悩んだ経験は皆持っているはずで、ことばや文化の問題とは無縁ではいられないという思いはあると思います。読者の皆さんのご家庭ではいかがでしょうか。一世二世の皆さんは、三世四世であるお子さん、お孫さん、曾孫さんとルーツについて話す機会がありますか。

先ほどのアンケート結果にあったように、回答した三世の半数以上が自身のルーツを隠した経験を持っていました。そのような経験を強いてきた日本社会。中国帰国者に限らず、マイノリティを受け入れ、共に暮らすことについて未熟な日本社会。共に認め合って暮らせるようになるまでの道のりはまだまだ遠いようです。

はじめに紹介した記事を書いた記者は、その後振り返って、「ルーツと向き合い続ける苦しさについて私は全く想像力が及ばなかった」と書いています。すっかり日本人として苦労なく生きているように見えるお子さんやお孫さんも、心中こうした迷いや悩みを抱えているかもしれません。それをちょっと覚えておいてほしいと思います。想像力を働かせるためにはまず知ることが必要です。私たち、中国帰国者の歴史を知る者にはそれを伝えていく責任があると改めて強く感じました。(O)